

「家がいいね」 第224号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2023. 1. 1



昨年最後の夕陽が宮川鉄橋の上に落ちて行きます。前日も、がん患者さんを自宅に見送りました。壁に座右の銘なるべくならうそのないほうがいい(みつお)がありました。半年間23人の見送りは過去なら1年間に匹敵します。何かが、変わってきています。

コロナの時代に、逆に生き方をみつける



治療を成し遂げ難いと思う時は、まず家に戻って共に相談するのがいい。それがコロナの経験です

感染は恐れましよう。でも、息をひそめ生活を縛る必要はないはず。かがり火で餅を焼いて息災を願った昔も疫病は在りました。むしろわが胸に抱き、共に時を大切に過ごしたことでしよう。命に限りがあるため、生き抜く先の死を受け止めました。死の経験を受け継がない時代に今や居ます。生死の境にいる医療関係者自身が直面する死を、恐れてもいません。



始めが濃厚隔離の方を年明けに送りました。癌であっても点滴せず、好きな飲み物で過ごし満足な顔の最期でした。帰りは朝熊岳の背景が赤く染まり、一仕事すると朝陽が出ました。何かしら賜うものは必ず在るものですね。

「あけましておめでとう」ではない？



私の年賀状の図柄です。月にはウサギが居ると言われますが見えますか？想像ですが右のウサギ何を見ているのでしょうか。自分の巢が、月の裏側にあるのなら、可哀そうに探し出せないようですね。時の区切りは不思議なもので、新年になっても本当に「何かが変わった」と言えるのでしょうか。おめでたいという根拠は不確かなものですね。

「さようなら」と「またね」

訪問診療の最後に言うのは「また来ますね」。必ずハイタッチをして頂ける百歳手前の老女がおられました。これはもう最期の挨拶かもしれないと思った時もタッチがあり、我が心に残りました。「さよなら三角またきて四角」の童謡を聞くと、2月は逃げる、さよなら3月、またきて4月、の言葉が浮かびます。本当に早く、時が過ぎます。

お知らせ



2月より新しい医師が加わります。詳しくは次号にて紹介します。40歳男性医師として在宅・訪問診療に力を注いで頂きます。私も以前にも増してこの伊勢地区で在宅医療のシステムが確立するよう、様々な連携に精出す所存であります。どうぞよろしく。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御薊町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可